
牛乳好きの黒い奴

青岬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

牛乳好きの黒い奴

【Nコード】

N05191

【作者名】

青岬

【あらすじ】

黒髪黒目の彼は牛乳が大好き。今日も仕事前に飲んでいく。

昼に二パック飲んだ。

書類整理の時に一本飲んだ。

休憩の時間に、沈んでいく真っ赤な太陽を見ながら一パック飲んだ。

会議の間も一本飲もう、と思っていたらいつの間にか寝ていて瓶の中身をダラダラと胸元に垂らしていた。

起きて、うわあああもったいないことしたちくしょう俺としたことが牛さんごめんなさい愛してるううと心の中で嘆いたのは言うまでもないことである。

そして部長がニツコリ顔で『いい夢見れたかい。』と言ってきた。

そんなわけで、今日は北地区に回されることに。

あそこは寒い上に、ただでさえモノが少ない。

イライラしたから三パック飲んだ。

つくづく思う。

カルシウム最高。

「うわっ！ しかも雨かよっ！」

黒髪黒目の、見た目で言うところと二十代後半ぐらいの男性が窓の外を見ながら言った。

空から遠慮なく降ってくる雫が、目の前の景色をぼやけさせる。

「ソナマサカナンテコッタイ。」

わざとらしい片言で話しながら、彼は机の中から照る照る坊主を出し窓の縁に紐でつり下げた。

「そんなもので天気が変わるものならお天気キャスターは皆クビになるでしょうね。」

「馬鹿、こういうことは信じるという心が大切なもの。分かったか馬鹿。」

「分かりました、馬鹿。」

「ならよし。」

「どうやら彼は、自分が馬鹿と言われたことは気にしないらしい。」

いや、気付いてないだけなのかもしれない。

馬鹿だから。

彼と話してた人物——いや、物体はそう思った。

それは、壁に立てかけてある鎌だった。

中高生の背ほどもある長さの刃。

半月型の美しい曲線を描き、不気味な銀色の光を放っていた。

「まったく、飲まないとやってらんね。」

彼は机の上の瓶を取った。

別の手に持つ鋭い針。

それで紙蓋を刺し、引っ張る。

キュポンと気の抜ける音がした。

首を晒し片手を腰に当て、瓶を自分の口に付ける。

彼が喉を鳴らす度、中の液体は減っていった。

白で満ちていた瓶が透明に変わる。

口を離して、彼は派手なため息のような、それでいて憂いがない声を上げた。

「本当に好きですね、それ。」

「骨強くなるしな。骨は大切にしないといけないんだぜ、骨は。」

「貴方が言うのと妙に説得力がありますよ。えーっと、軽死有無でしたっけ。」

「カルシウムな。それ何処かの暴走族みたいだから。」

彼はハンガーにかけられている黒いローブを取った。

バサリと音を立てて、黒が彼の体中を包む。

「今日は北地区な。」

「何と。私は今日飯抜きですか。」

「そうしないように努力しますとも。」

フードを被り、彼はますます真っ黒になった。

先ほどまで飲んでいた飲み物の色とは真逆だ。

黒い腕を、わずかに覗く顔の前でスツと動かす。

彼はその一瞬で顔を変えた。

「行くぜ相棒。」

「はい相棒。」

冷たい雨が降る夜。

窓から、黒いローブを纏った骸骨が飛び出した。

牛乳のように真っ白な手には、大きな鎌を携えて。

（後書き）

死神さんだって健康には気を使わないと。
特に骨ね骨。

栄養たっぷりの牛乳は彼にとって手放せない物なのです。

シルバーウィークが後一日なんて信じない。
信じないったら信じない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0519i/>

牛乳好きの黒い奴

2010年10月23日02時21分発行